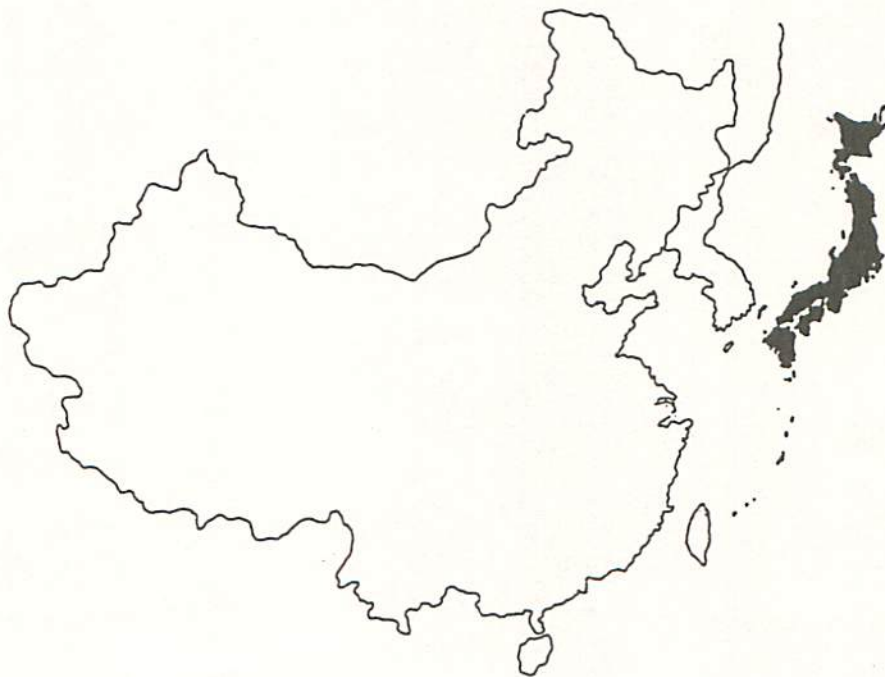


# 日本ビジネス中国語学会

## 会 報

第5・6合併号



## 第5回総会開催 公開講演会・会員シンポジウムを同時開催

日本ビジネス中国語学会の第5回総会が、6月10日（土）午後2時より、大阪市中央区の蝶理(株)会議室において開催され、熱心に審議を行いました。

総会は武吉次朗氏の開会の辞に続いて、会則に基づき伊地智善継会長が議長をつとめ、総会成立の確認の後、藤本理事長より活動の報告、収支報告、会計幹事報告を行い、続いて今年度の活動案、予算案提出と説明を行いそれぞれ承認されました。

総会の後に、伊井健一郎氏に北京大学での1年間の研修体験、今里禎氏に訪中体験を話していただきました。

講演会の終了後、懇親会を催し親睦を深めました。

### 日本ビジネス中国語学会第5回定期総会議事記録（要旨）

1995年 6月10日（土）蝶理(株)大阪会議室

1. 14:00 開会の辞 武吉次朗氏  
議長選出 会則にもとづき伊地智善継会長がつとめる。
2. 総会成立 藤本氏より報告。4月1日現在会員84名の内、出席者6名、委任状45名、合計51名。過半数で成立を確認。
3. 報告 活動報告（藤本恒）：資料にもとづき報告。 承認  
収支報告（岩下孝彦）：別紙の通り収支状況を報告。  
幹事報告（待場裕子）：正確に記帳されている事を認めます。承認
4. 活動案提出 藤本恒より資料にもとづき提案。 承認
5. 予算案提出 藤本恒より資料にもとづき提案。 承認
6. 14:50 閉会

主な活動報告 1994. 4. 1～1995. 3. 31

☆定時総会

94年 6月18日 (土) 蝶理(株) 大阪本社会議室

☆公開講演会・シンポジウム

94年 6月18日 (土) 第6回公開講演会・シンポジウム

(定時総会後に同会議室にて開催)

講師 待場 裕子先生＝中国語通訳者養成に向けての試み

丁 逸 先生＝中国経済と対中投資及び通訳の役割

講演内容は94年 9月発行会報第4号で既報。

95年 2月18日 (土) 第7回公開講演会・シンポジウム

(蝶理(株)東京本社会議室にて開催、約 100名参加)

講師 三瀨 正道先生＝新聞体中国語の特徴と教学上の留意点

永田 小絵先生＝パソコン通信ネットワークNIFTY-Serve

武吉 次朗先生＝情緒的な日本語、論理的な中国語 私の翻訳体験

講演内容は本第5・6合併号に掲載

☆親 睦 会

94年 6月18日 (土) 第6回公開講演会・シンポジウム終了後に開催

95年 2月18日 (土) 第7回公開講演会・シンポジウム終了後に開催

☆検定試験

94年 9月5日 (月) 打合わせ (日中語学センター 15:00～16:30)

出席者－藤本、岡本、武吉、待場、今里、岩下

11月6日 (日) 大阪：初級 7名、中級7名

東京：初級 4名、中級9名(1名欠席)

出席者－藤本、岡本、武吉、岩下で事務分担

11月12日 (土) 採点会議 (日中語学センター 15:30～17:00)

出席者－藤本、岡本、武吉、待場、岩下

21日 (月) 受験者に結果通知

☆会 報

94年 9月1日 日本ビジネス中国語学会会報 第4号発行

## 第6回総会開催

日本ビジネス中国語学会の第6回総会が、6月8日（土）午後4時より、大阪府中央区の蝶理(株)大阪会議室において開催されました。

総会は伊地智善継会長が議長をつとめ、藤本理事長より活動報告、収支報告、会計幹事報告と今年度の活動案、予算案提出と説明を行いそれぞれ承認されました。

総会の後に懇親会を催し親睦を深めました。

### 日本ビジネス中国語学会第6回定期総会議事記録（要旨）

1996年 6月 8日（土）蝶理(株)大阪会議室

- |          |   |                      |
|----------|---|----------------------|
| 1. 16:00 | 開会の辞 武吉次郎氏<br>議長選出 会則にもとづき伊地智善継会長がつとめる。   |                      |
| 2. 総会成立  | 藤本氏より報告。4月1日現在会員83名の内、出席者9名、委任状42名、合計51名。過半数で成立を確認。   |                      |
| 3. 報 告   | 活動報告（藤本恒）：資料にもとづき報告。<br>収支報告（岩下孝彦）：別紙の通り収支状況を報告。<br>幹事報告（待場幹事欠席につき藤本理事長が代理）<br>：正確に記帳されている事を認めます。 | 承認<br><br><br><br>承認 |
| 5. 活動案提出 | 藤本恒より資料にもとづき提案。   | 承認                   |
| 6. 予算案提出 | 藤本恒より資料にもとづき提案。   | 承認                   |
| 7. 17:00 | 閉会  |                      |

主な活動報告 1995. 4. 1～1996. 3. 31

#### ☆定時総会

95年 6月10日（土） 蝶理(株) 大阪本社会議室

#### ☆公開講演会・シンポジウム

95年 6月10日（土） 今回は公開講演会の形をとらず、総会の後に、井伊健一郎氏に北京大学での1年間の研修体験、今里禎氏に訪中体験を話していただきました。



☆親睦会

96年 6月10日（土） 総会終了後に開催

☆検定試験

95年 9月16日（土） 打合わせ（日中語学センター 15:30～16:30）

出席者－藤本、岡本、武吉、待場、今里、岩下

11月11日（土） 大阪：初級5名、中級3名 東京：初級5名、中級2名

出席者－藤本、待場、岩下で事務分担

18日（土） 採点会議（日中語学センター 15:30～17:00）

出席者－藤本、待場、岩下

21日（月） 受験者に結果通知



# 現代中国語新聞体と文語文法

三 瀧 正 道

## 一. はじめに

現代中国語を学校（主に大学）で学ぶ場合、通常行われるパターンは、発音練習の後、まず口語体の学習へと進む。そして、初級文法を一通り学ぶと、徐々に読み物へと入っていく。

その中級読物を見ると、会話を中心とした“中国見聞”的な教材を除くと、小説、散文、時事文などがほとんどである。即ち、“書きことば”が中心になってくる。

“話しことば”と“書きことば”にどれ程の違いがあるかは、一口に論ずることはできないが、全く同じではないことは明らかである。では、各々のテキストでその違いがきちんと指摘されているかと言えば、そういうものはほとんどない。

習うより慣れろ、と言うに等しい教授法ではあるが、過去何十年間、日本の中国語教育は、そのやり方を踏襲してきたわけで、むしろ、戦前のほうが、時事文などが独立して扱われていた形跡がある。言葉を換えれば、それだけ、両者の文体の違いも大きかった、と言うことかも知れない。

こうして、違いが明確に指摘されないまま両方の文体に慣れると、必然的に、いざ中国語を使用する時、話すにしろ、書くにしろ、両者を平然と混合させて使ってしまうという失敗を犯す。

筆者自身、大学院を修了したばかりの頃は、この違いが細部まではわからず、今考えると失笑を買うような中国語を使っていたように思える。

その後、次第にこの問題を意識するようになり、更に気がついたことは、特に最近の書きことばのうち、小説等で、五四の頃と比べて一層口語化が目立つのに対し、例えば、人民日報等で使用される時事中国語文などは、相当部分、一般の話しことばと異なる、ということであった、また、フォーマルな通訳で使用されることばが、ほぼ、時事文（筆者はこれを“新聞体”と呼ぶことにしているので、以下、それに従う。）と似ていること、学術論文や学術書籍も同様であることを改めて再認識するところとなった。

商業通信文も、常用される挨拶表現や専門語彙を除けば、文体としてはほぼ同様であろう。

このような経緯を踏まえ、“新聞体”を一つの独立した文体として扱い、その教授法を確立す

る必要性を感じ、その把握と解明を心がけているが、その一端として、文語体との違いがどこまで意識されているかについて、例を挙げて検討してみたい。

## 二. 辞典上の取扱い

現在、様々な辞典が出版されているが、その中から、出版時期のズレや特徴等を踏まえ、

①中日大辞典（大修館）

②現代中国語辞典（光生館）

③中日辞典（小学館）

の三冊をとりあげ、その記述、分類を比較してみよう。

まず、文語文や現代書きことばと、少しでも重なり合う可能性のある語を、各辞典は、どんな引き出しに入れようとしているのだろうか、（各辞典は、①、②、③で略記）

- ①  — 文語、文語的用法     — 旧公文用語  
 — 古白話  
 — 旧書簡文用語
- ②  — 書面語、文言語     — 旧社会の用語  
 — 古語     — 書翰文用語
- ③ <書> — 書面語  
<旧> — 旧中国で使われていた言葉。  
<古> — 古代に使われていた言葉。

この分類から見ると現代書きことば、特に“新聞体”独得の文体は

①では、 の文語的用法に

②では、 の書面語に

③では、<書> の書面語に

主として含まれているのだろうと想像がつく。しかし、③では“<書> 書面語”が独立しているのに対し、①、②では、それぞれ、“文語”“文言語”と同じ引き出しに入れられている点異なる。①、②では、両者の間に明確な線を引いていないのである。

③には、“文語”“文言語”に当たる分類がなく、一部は<旧>や<古>の中に、また一部は割愛されているということになるのであろうか。これはチェックすべきポイントである。

以上の分類法を頭に入れて、幾つか実例にあたって見よう。

“于”は現代書きことば、特に新聞体で常用されるとともに、文語でも常用される介詞である。



これを①～③の各辞書で調べてみると、

- ①：分類なし。
- ②：文言の介詞
- ③：〈書〉

となっている。

①では、これを☒（文語、文語的用法）に分類していない。文語の代表的介詞であるのに、である。一方、②では文言としているが、書面語という枠からはずしてしまっている。③だけが、書面語に入れているが、この書面語が、どこまで文言と区別したものであるかはわからない。

そこで、次に、一般に新聞：では用いられず、専ら、文言に用いられる常用的助詞“矣”を調べてみると、②では“文言の助詞”としているのに対し、③では、〈書〉に分類している。つまり、“于”も“矣”も、②と③では同じ分類に入れられているのである。こうなると、②で

☒ — 書面語、文言語

と表記しながら、この書面語と文言語の下位分類が、編者によって、厳密に検討されているとは思えないし、③の場合も、〈書〉の書面語が、文語と区別してたてられた概念とは思えない。

“于”が①で分類が与えられていないので、①で☒の分類が与えられそうな語として、“诸”（=之于）を選んでみる。“诸”は、まず口頭では、フォーマルな通訳も含めて全く使われないであろう、純然たる“書きことば”である。

- ① — ☒、② — 分類なし、③ — 〈書〉

今度は、①で☒の分類が与えられている。ところが、②では分類が与えられていない。③では相変わらず〈書〉である。

ここまでの結果から考えると、①は、現代書きことば（書面語）という意識があまなく、現代中国語か文語か、という大きな範疇で把え、プラスして若干の特殊な分類を加えているかのように思える。それに対し、③は、〈書〉としつつも、結局は、書面語と文語を一緒にしているのであろうか。

ところが、以上のような推論も、次の例を見ると更に混乱してしまう。

“加以”の分類

- ① — ☒
- ② — ☒
- ③ — 分類なし

“加以”は、主に処置を加える2音節の動詞につき、四音節化して語調を整える働きを持つれっきとした書面語である。



これに、①が㊦の分類を与えているのを見ると、上で論じた①の分類に対する推論が音をたてて崩れてしまう。“于”と“加以”が“分類なし”と“㊦”に区別される理由がわからなくなってしまうのである。

②も同様に、“于”は、“文言の介詞”と文言に限定し、“加以”は書として、書面語・文言語の範疇に含める。③についても“于”“矣”“諸”が〈書〉なのに、なぜ“加以”が分類なしなのか、まるで見当がつかない。

以上のような混乱は論ずれば論ずるほど、調べれば調べるほど、基準がずれて、混迷するばかりである。

このような混乱の原因は何なのだろうか。

まず、主要な原因として考えられるのは、旧民国期の新聞や、現在の台湾の新聞を見てもわかるように、もともと、新聞に使われる文体は、現在の人民日報等の文体と比べ遙に文語的色彩が濃厚であったことである。

その時点では、文語体と分けて論ずる必要性をそれほど感じなかった人もいれば、むしろ口語体との差を今以上にはっきり強く認識し、時事文のテキストが、意図的に編まれたりした。

ところが、中華人民共和国成立後、新聞等の文章が平易になると、口語体との距離が縮まったことにより、別のジャンルとして見る意識が希薄になった。その一方で文語体との距離が広がったのに、その違いを意識することが、実用面では、裏の部分としてあまり緊急性がなかったために、その面での研究がとり残されてしまった感がある。

もしくは、以前に比べ、口語体との違いがかなり部分的になったために、全体としては個別的な違いとして意識され、習うより慣れろ、或いは文法的解釈は、文語文法の本を借用して、必要部分を読めば事足りる、という考え方になっていったのではないだろうか。

上記①～③の辞典の分類上の問題は、まさにこの過渡的時期に於て、しかも、その変化のスピードと歴史の浅さ故に未解決のまま残り残されている部分を示唆していると言えよう。

### 三. 新聞体と文語体

文語体とは、本来、周秦の文体、それに倣った唐宋の文、更に清代に及ぶ古文の文体を言うが、その各時代の文が、決して全く同じものではなく、例えば人称代名詞などが、時代の流れの中で取捨選択されていることは周知の事実である。したがって文語文法の中にも、時代による違いはあるが、ここでは、その最大公約数的部分と新聞体を比較してみると、例えば、上述の代表的介詞“于”でも、明らかな違いがある。

楊伯峻の『中国文語文法』の挙例で見ると“于”の用例の中で、動詞の後に場所を導く例として、

イ “庞涓死于此树之下”（『史記』孫子列伝）

とある。これは、現代でも充分通用する“于”の用法である。

しかし、文頭に場所を示す語を導く介詞としての例、

ロ “于败堵丛处探石发穴。”（『聊齋志異』促織）

これは、現代の新聞体では用いられない。時を示す場合（“于一九九五年”）は使用される。

そこで仮に学習者が、新聞体に使われている語の用法について文語文法に解釈を求めた場合、新聞体と文語体の集合が必要十分の関係にはない、という理解が欠落していると、類推を働かせたとたんに、とんでもない誤解をすることになる。つまり、ロの用例を見て、それを新聞体に用いるという誤りを犯すことになる。

それを訂正するには、くどいようだが、今のところ、習うより慣れろ、しかないのである。

新聞体の中には、口語体と異なる文構造も、確実に存在する。しかも、それは文語体と比較すれば、その一部分にしかすぎないのである。したがって、文語文法という大枠の中で、現在も使用されている構文等をマークするのはいたずらに労力がかかるわりには、学習者にとってプラスにならない。そこで、この際、思い切って文語体との関係で論ずるのをやめて、現代新聞体として、必要な部分を過不足なく把握し、数えるほうが、はるかに実際的だと思われるのである。正直なところ、その数はそんなに多くはない。単文における主な例を挙げると、

例1：比較文

A + 形容詞 + 于 + B（AはBより～だ）

◦ A高于B / ◦ A重于B / ◦ A红于B /

例2：受身文

为（被）～所……（～に……される）

◦ 被越来越多的社会有识之士所认识

例3：二つの動詞が共通目的語をとる。

V<sub>1</sub>和 V<sub>2</sub>+O（OをV<sub>1</sub>し、V<sub>2</sub>する）

◦ 培养和尊重人材

また、文全体の構造ではないが、例えば、文としての格調を求めるための四音節化の要求からきた多くの特徴的表現法も、まとめて整理し論ずれば、かなり解り易くなるであろう。次にその例をいくつか示すが、これらの例は、必ずしも四音節化の側面からのみ分析し得るものでもなく、他の必要性から出た部分も含んでいることは言うまでもない。



例4：本来は動詞として用いることのできる二音節語を他の動詞の目的語として、それによりあらたまった口調を示す。

イ. 解決→加以解決

ロ. 解决了→得到解决

ハ. 研究→进行研究／访问→进行访问

例5：一部の二音節形容詞を動詞“感到”と組み合わせる。

高兴→感到高兴／舒适→感到舒适

例6：副詞に“为”を加え、二音節形容詞を修飾する。

极为重要／颇为严重

“为”は副詞の他、動詞や形容詞とも結びつき、二音節語と結びついた場合、結果として、例6と同様の効果を発揮することが多い。

#### 四. 新聞体の提示の仕方

以上のようなことから考えて、学習者のためにも、新聞体の概要をきちんと提示する必要があるだろう。それは決して膨大な量にはならず、現在の基礎文法の中に、更に2～3章も加えれば充分である。但し、その場合、不可欠な点は、以下の点を忘れないことである。

a：口語体との比較の視点

①新聞体にしかみられない独自の部分

例：“所+V”の“所”の用法など

②文体による言い換え

例：“是不是”→“是否”

介詞“把”→“将”

b：文法的説明にのみ終るのではなく、慣用的表現集が、文法的説明とペアとなって用意されていること。新聞体では、文語体のある部分が、決まった言いまわしという形の中に残っていることが多い。

この他に、今後、研究を要する点として、“的”“了”“着”などの助詞の、文体別による用法上の留意点も忘れてはならない。新聞体では、“的”の使用頻度がより少ないことは明らかで、それは修辞上の要請が強いと思われる。しかし、その“的”の使用を制限する場合、いかなるプライオリティーがあるかは、法則性という形ではっきりしていない。

“了”も同様で、“成立于一九三四年”のような言い方により、“一九三四年成立了”の“了”



が使用されずに済み、その分、“了”が減る、というような他に、“解決了”が“得到解決”となって（前述）、別の形に言い換えられて“了”がなくなったりすることもある。結果としてみると、存現文に使われる“了”が多く残っているようだが、それが文体としての特徴と言えるか、はたまた、新聞が出来事を伝えるので、自然、そういう例が多いのかは、まだ検討はこれからである。

いずれにせよ、中国語のニーズが飛躍的に高まっている現在、口語体と新聞体の文法的違いを明示すべきであり、語法の論文中の例に両者が混在しているようなあいまいさは、厳しくチェックされなければならない。

（本稿は、本年2月18日にビジネス中国語学会で行った講演の一部に加筆したものである。）



# 中国フォーラムの紹介

永田小絵

## (1) 中国フォーラムの概要

1994年11月16日に中国フォーラムが日本最大の商用BBSのNIFTY-Serveの中に設立されました。このフォーラムの対象は、76万人ユーザの中の中国大好き人間です。勿論、在日中国人も含まれます。このフォーラムに設けられている、中華文化圏を中心とした20の会議室には、様々な話題が提供されています。在日中国人が担当する中国語講座や中国人向けの日本語講座もあります。GOコマンドは>GO CHINAです。

## (2) 各会議室の内容

- 1 建議通知●……運営協議・ご意見・お知らせ
- 2 語言漫談●……中国語・通訳・翻訳  
「パソコン通信日中英辞典」の編集作業が進行中。翻訳や通訳に関する質疑応答も盛んに行われています。
- 3 商資人才●……ビジネス・投資・人材バンク  
中国ビジネスの為の「CF人材バンク」を発足し、人材登録が行われています。
- 4 情報提供●……製品・求人・アルバイト情報  
様々の情報提供の場。
- 5 微机技術●……MULCO・パソコン  
パソコンで多言語を扱う技術に関する情報交換。  
各社のパソコン用の中国語ソフトを議論、比較する場でもあります。
- 6 中医学習●……中医学勉強会  
正真正銘の中医学の知識を勉強するために設立され、某有名大学の先生が担当されています。
- 7 電腦網絡●……Internet・UNIX・BBS  
インターネットと各BBSの中国に関する話題、大陸(cn)、台湾(tw)、香港(hk)にインターネットの話題。

- 8 Online誌●…COM：華声和語・華夏文摘等  
華声和語、華夏文摘などのオンラインマガジンの話題を提供しています。
- 9 日語茶館●……………自己紹介・フリートーク  
自由談話室。会員の気楽なおしゃべりの部屋。
- 10 中文茶館●……………J I S形式の中国語文章  
J I Sコードに変換された様々な中国語の文章を読むことができます。
- 11 文化娯楽●…芸術・芸能・習俗・旅行・催事  
映画、音楽、書画といった芸術・芸能の話題や料理、風俗習慣、旅行記、中国文化関係の催し物の情報などを話題にする場です。
- 12 深港澳台……深〔圳〕・香港・澳門・台湾  
経済特別区、中国に返還される香港という1国2制の実験を実施する場、マカオ、台湾の話題が話されています。
- 13 華人世界●……………海外中国人・華僑・帰国者  
在日中国人就学生、留学生、学者、就職者、定住者、帰国者、華僑、残留孤児、残留婦人についての話題。
- 14 通信実験●……………日中bilingual通信実験室  
日本のJ I Sコード、中国大陸のG Bコード、香港・台湾で使っているB I G 5コード、インターネットによく使われているH Zコード、日中共同作成の日本語・中国語を共存させるN i H a o 2コードなどのコード体系による日中バイリンガル通信の実験を行うことになっています。
- 15 中文教室●……………中国語作文・会話教室  
中国語講座が開設され、会話・作文・文法などを学ぶことができます。
- 16 日語講座●……………日本語作文講座  
中国人むけの、日本語作文講座です。
- 17 発言練習●……………初心者質問・練習コーナー  
パソコン通信の初心者の為に提供しています。

### (3) パソコン通信による対話の実例 (パソ通会話のてけいてきな例)

0078/00137 PFE00746 永田 小絵

【ことば遊び】 不怕辣・辣不怕・怕不辣

(2) 94/12/16 16:25

コメント数：1

大家好。このまえの仕事でちょっと面白い表現があったので紹介します。



訪日視察団のメンバーに四川省出身の方がいて、食事のときに必ず唐辛子を大量に使うのですが、それを見てびっくりしている我々にほかの団員がこう言うのです。

「他是怕不辣的，吃辣的有三種，不怕辣、辣不怕、怕不辣。」

不怕辣：辛くても平気，辣不怕：辛いのが好き，怕不辣：辛くなくちゃだめと適当に通訳しておきました。これなら日本語としては「辛いものを食べる人の三段階」ということですからっきり理解できるので問題ないのです。

でも、「不怕辣」と「辣不怕」はどう違うのかな？

どなたか、解説していただけますか？

00090/00137 KYE04060 呉 川 RE:【ことば遊び】不怕辣・辣不怕・怕不辣

(2) 94/12/27 12:08 00078へのコメント コメント数：1

◎永田さん：

お久しぶりで～す。この年末は、ほんとに参った！今日になって、「やれやれ」といった感じですね。(-\_-;

さて、この間、ご質問の「不怕辣」と「辣不怕」の問題に入りたいと思いますが、

>不怕辣：辛くても平気

>辣不怕：辛いのが好き

>怕不辣：辛くなくちゃだめ

と訳されたのは、実にはうまいなぁと思います。ただし、「不怕辣」と「辣不怕」の構成からみると、

●不怕（動詞）＋辣（目的語） → 辛いのを 恐れない。

●辣（形容詞）＋不怕（動詞） → 辛くても 恐れない。

というふうになると思われます。実は、「辣不怕」の言い方は、いくつかの成分を省略した言い方で、「辣也不怕」を縮めたものです。いわゆる「緊縮句」の一種ですね。

意味から考えると、「不怕辣（辛いものを怖がらない）」というごく普通の表現よりも「辣不怕（辛くても平気だ）」の方は、かなり強調されているのですから、永田さんの三段階の訳し方は、その趣旨をしっかりと掴んだ意識となるわけですね。

こういった字数を揃えるために、わざと縮めていう言葉は、日常会話では結構多いですね。

以上、簡単ですが、ご参考までに。再談！

---

(以下はパソコンの画面上で読むJ I S 漢字の中国語の文章の例です。)

### 留学過日子的故事

灰人

(一)

張三很能耐，做訪問學者不到一年就將夫人從國內接來了。夫人賢慧能干，又是學英語出身，到來兩星期後就在一家超級商場找到了一個清潔的工作。

工作時間不算長，每天四五個小時。但很辛苦，早晨四點就得起床。張夫人能吃那個苦，不但沒有怨言，而且越干越有勁，兩個月後TA又在一家小茶館謀了Ff招待的差使。商場下班後就進茶館，一步不停地緊跟着現代生活節奏。這是張夫人在外面的工作。在家，張夫人仍然主持家裡的一切。張三的生活質量並沒有因為夫人外出工作而下降。張三正在攻讀博士，沒天晚上到家時，夫人已將飯菜做好等他就餐。菜自然是豐富而且看上去也很可口。吃飯時夫人不時透露如何在工作時偷空打dv的訣竅和如何機智地與工頭周旋而爭回半小時工錢故事。得意之色洋溢在張夫人的臉上，張三頻頻點頭。

飯吃完了，該喝杯茶了。張三愛喝綠茶，這裏的洋茶不是味兒。夫人在出國時為他帶了很多。

“是喝龍井還是毛峰？”夫人親切地問道。

“就毛峰BA。”

坐座沙發上，看着電視，品味手中捧着的散發着田園般芬芳的淡淡綠茶，張三在內心深處感慨道：

“多麼淡雅的生活！”

---

#### (4) パソコン通信に必要なハードウェア

- ① パソコンまたは通信機能付きのワープロ
- ② 電話回線（普通の電話と兼用でOK）
- ③ モデム
- ④ 通信ソフト

NIFTY-serveに加入するには、「NIFTY-serveイントロ・パック」を買って手続きをすれば簡単です。皆様のご参加をお待ちしております。

以上

# 情緒的な日本語、論理的な中国語

— 私の翻訳体験から —

武吉次朗（摂南大学）

私の問題意識：「中国語が分かれば日本語訳は簡単だ」と考えている人が少なくない。

実際は、①中文日訳には「原文の漢字に引きずられやすい」という“宿命”がつきまとう。②日本語もまた奥の深い言葉である。③両国語の言語構造は大きく異なっているが、それは両民族の発想の相違、ひいては社会風土の相違に起因している。

## 一、翻訳とは何か

ある言語で表現された情報を、別の言語の等価な情報に置き換えること。

翻訳は一種の再創作

通訳は潤滑油、空気

### 翻訳の基準

信（忠実に）

達（なめらかに）

雅（美しく）

### 翻訳のポイント

原文の理解力（中文日訳の場合は文法構造＋単語の意味＋背景の諸事情）

訳文の表現力（ “ ” 漢文調から脱却し、こなれた日本語に）

### 翻訳の基本的テクニック

加訳・減訳（付け加えるか、省略するか）

反訳（肯定形か、否定形か）

変訳（品詞・成分の変更）

倒訳（ひっくり返し）

合訳・分訳（合体するか、分割するか）

## 二、翻訳の極意 — 論理的な中国語を情緒的な日本語に

中国語

ないものはない

“没有”

“我不去”

日本語

相手への繊細な気配り

「あいにく今ちょっと……」

「残念ですが都合が……」



您	(自分と相手の関係により使い分ける) — 「あなた」とは言わない —
能動的、意思表示的 “我给你泡茶啦!” 常に主語が明確	客観的、自然発生的 「お茶が入りました」のように、他動詞 を避け自動詞を好む 「会議が開かれる」「……と思われる」
主体的、断定的 “我们一起喝杯咖啡吧!” 常に論旨明快	控えめ、あいまいさ 「お茶でも飲みませんか」 「人にやさしい政治」
要望・命令形が多い 严禁吸烟 要、应该 安全须知、游览须知 肯定・否定が述語の冒頭で分かる	押しつけを嫌う たばこはご遠慮ください 語尾をにごす 「あの人はちょっと……」 「ではないかと考えられなくもない」
単語の厳密な使い分け 严格、严密、严厉、严峻、严明、严肃…… 制造产品，创造财富，造就人才	柔らかな和語で概括 きびしい 「物をつくり、富をつくり、人をつくる」
擬音語・擬態語はおおづかみ 与コロコロ基本相同	きめ細かな擬音語・擬態語 コロコ、ココロ、コロン、コロンコロン、コロリンコ コロコ、ゴロゴロ、ゴロン、ゴロンゴロン、ゴロリンコ
肯定形が普通 只有……，才能…… 记住……!	否定形を好む ……しなければ……できない ……を忘れるな
演繹法（結論の後に理由、総括の後に内訳） 利用各种传媒，如报纸、电视…… 有两个操场：一个大的，一个小的。	帰納法（説明の後に結論） 新聞やテレビなどいろいろなメディアを使って 大と小の二つのグラウンドがある

標点符号が重要な役割

頓号・逗号・分号・冒号の使い分け

疑問文はすべて文末に「？」

句読点はあまり多用されない

読点だけ

よほどでないとなつけない

結論：中国語は油こってり

日本語はお茶漬さらさら

### 三、中国語の最近の変化（時代の変化を映し出す）

官製・民製の新語

人均 人际关系 瓶颈 复关 扎啤 面的

香港・台湾からの新語

大哥大 电脑 影碟（激光视盘） 按揭

死語の復活

拜拜 股份公司 经纪人 投标 彩票

外来語の導入

（別掲）

### 四、翻訳力上達の経験談

①常に何事にも旺盛な好奇心をもち、アンテナを張っておく

②毎日、日本語と中国語の新聞を読む

新聞記事は優れた教材であり、飽きがこないし、比較もしやすい

③日本語に関する本を読み、語感を磨いておく

ライスカレーとカレーライス、ライス・ご飯・めし はどこが違うか、等々

④同じ原文について、何とおりもの訳し方を試みる

大吃一惊（おどろく、驚愕、仰天、肝つぶす、度肝ぬかれる、ビククリしたなももう！・・・）

⑤翻訳の際は、いろいろな辞書・参考書を引くことを厭わない

中日辞典と日中辞典以外に、日/日や中/中辞書、ことわざ・略語・類義語・慣用語辞典、新聞社の用語の手引き、新語辞典等々も活用を

結論：翻訳に携わる者にとり学習とは、母国語を含む両国の言語、およびその背景を構成する文化を学ぶこと。

中国の外来語 (例)

音 訳		直 訳		音訳 + 分類語	
咖啡	コーヒー	手球	ハンドボール	啤酒	ビール
可可	ココア	足球	フットボール (サッカー)	香槟酒	シャンペン
可口可乐	コカコーラ	黑马	ダークホース	沙丁鱼	サーディン (いわし)
威士忌	ウイスキー	黑匣子	ブラックボックス	汉堡包	ハンバーガー
白兰地	ブランデー	白宫	ホワイトハウス	比萨饼	ピザ
沙拉	サラダ	五角大楼	ペンタゴン	四喜饭	すし
吉士	チーズ	性骚扰	セクハラ	比基尼泳装 (三点式)	ビキニ
三明治	サンドイッチ	热狗	ホットドック	茄克衫	ジャンパー・ ジャケット
雪茄	シガー	二手	セコハン(中古品)	莎丽服	サリー
沙发	ソファ	牛津	オクスフォード	高尔夫球	ゴルフ
沙龙	サロン	中途岛	ミッドウエー	保龄球	ボウリング
俱乐部	クラブ	柔和七星	マイルドセブン	霹雳舞	ブレイクダンス
香波	シャンプー	映 画		嘉年华会	カーニバル
摩登	モダン	「超人」	スーパーマン	爵士音乐	ジャズ
模特儿	モデル	「音乐之声」	サウンド・オブ・ ミュージック	桥牌	ブリッジ (トランプ)
迪斯科	ディスコ	音 楽		呼拉圈	フラフープ
派(帕)司	パス	ローマ字がまざる		桑拿浴	サウナ
巴士	バス	「风流寡妇」	メリー・ウイドウ	嬉皮士	ヒッピー
密斯	ミス			可兰经	コーラン
密司脱	ミスター			卡片	カード
拜拜	バイバイ			卡车	車
马达	モーター			摩托车	バイク
瓦斯	ガス	卡拉OK	カラオケ	拖拉机	トラクター
伏特(伏)	ボルト	T恤(衫)	Tシャツ	驳船	バージ (はしけ)
安培(安)	アンペア	B P机	ポケベル	艾滋病	エイズ
瓦特(瓦)	ワット	K T V包厢	カラオケボックス	拉力赛	ラリー
托福	TOEFL	A A制	わりかん	迷你裙	ミニスカート
雷达	レーダー	我de朋友	“的”	卡通片	カートン (映画)



## 中日日談の例(2例)

A. 中共中央总书记江泽民今天在此间会见日本客人时说，在中日关系的新形势下，中日两国政治家应该共同努力，把中日友好事业推向新阶段。

江泽民是今天上午在中南海会见以日本众议员、前大藏大臣林义郎为团长的日本日中友好议员联盟代表团时说这番话的。

林义郎说，日本应该在“一个中国”和对历史进行反省的基础上发展对中国的友好关系。江泽民对林义郎的谈话表示赞赏。江泽民说，……

日中议联是日本超党派的国会议员对华友好组织，其成员有五百多人。去年，该议联选举产生了新的领导成员。

江泽民中国共産党総書記は今日、当地で日本の賓客と会見した際、中日関係の新しい情勢の下で、両国の政治家が中日友好事業を新段階へ推進するため共に努力すべきであると語った。

江総書記は今日午前、中南海で衆議院議員・元大蔵大臣の林義郎氏を団長とする日中友好議員連盟代表団との会見の席でこう述べたもの。

林団長は、日本は「一つの中国」と歴史への反省をふまえ、中国との友好関係を発展させねばならない、と語った。江総書記は林団長の発言を称賛し、こう述べた。……

日中議連は日本の超党派の国會議員による対中国友好組織で、500余人のメンバーを擁する。昨年、同議連は新役員を選出した。

---

B. 她静静地伫立在那儿，宛如一只温柔的白天鹅轻浮在静静的水面上。一件洁白的紧身连衣裙显露出她那动人的曲线；一串玲珑的珍珠链落在木兰花般的长颈上；尤其是那一双黑艳艳的大眼睛，即使是可爱的小天使下凡，恐怕也要让她三分了。然而，她那一幅秀美而又矜持的脸庞仿佛忧郁的黄昏，微微泛出一丝惆怅的云彩……

静かにたたずむその姿は、水面に浮かぶ白鳥のようだった。真っ白なワンピースから魅力的な曲線美がはっきりと感じられた。真珠のネックレスが、モクレンの花のような首にかかっている。きらきらと輝く黒い瞳は、下界に下り立つ天使も一目(いちもく)おくことだろう。しかし彼女の美しいがややぎこちない顔立ちは憂鬱なたそがれのようであり、ふさぎこむような気配がかすかに浮かんでいた……。

## 日本ビジネス中国語学会 設立趣意書

明治以来終戦時に至るまでの間、わが国の外国語教育は、先進文化を吸収するための文化語学と、近隣諸国との軍事・通商に備えるための実用語学にはっきりと分れていました。従って文化語学はアカデミックな研究であり、実用語学は技術的訓練にしかすぎないと見られてきました。そういう潮流の中で、中国語学界のエリートたちは、中国語学を文化語学としてアカデミックな研究の対象にしようと、第2次大戦末期に力説されるようになりました。

第2次大戦後は、曲がりなりにも中国語学はアカデミズムの片隅にその位置を見つけ、大学の教員もアカデミックな研究によって自分の業績を作るようになりました。しかし、一方で実用語学としての中国語学は軽視されるに到りました。外国語大学や社会科学系学部でも、商業経済や新聞雑誌に関する中国語研究は次第におろそかになり、そのため、この方面の研究に従事する人々は、共同に研究する基盤もなく業績を発表する媒体もないという有様です。

言うまでもなく、日本のおかれている国際的地位は明治・大正と大いに異り、外国文化に関する見方も先進・落後という単純な区別はなくなり、わが国と中国との関係もまた文化から経済まで広くかつ深いものになっています。中国語の言語理論的研究はもちろんより一層発展させる必要があります。同時に中国語の実用的研究はそれ以上必要であると思われれます。

近畿在住の数人の研究者が時折顔を会わせて論議しているうちに、全国各地に散在しているそしてまた学界のみならず経済界で活躍しているこの方面の研究者を結集して、中国語の実用的研究——例えばビジネス中国語・通訳翻訳の研究等々を組織的、体系的に推進するために、ここに「日本ビジネス中国語学会」を設立いたしました。

趣旨に賛同下さる方々のご参加を心から期待しています。



# 日本ビジネス中国語学会会則

## 第1条(名称)

本会は日本ビジネス中国語学会と称する。

## 第2条(事務所)

本会は事務所を大阪市内に置く。

## 第3条(目的)

本会はビジネス中国語に関する研究及び関係諸団体との交流を通じて、我が国における中国語学習者の語学能力の向上を図り、もって日本と中国の友好交流の発展に寄与することを目的とする。

## 第4条(事業)

本会は前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

1. ビジネス中国語、翻訳・通訳に関する研究。
2. 日中間の相互理解を深める為の教育・研修事業。
3. セミナー、講演会の開催。
4. 機関紙の発行。
5. ビジネス中国語検定。
6. その他前各号に関連する事業。

## 第5条(会員)

本会の会員は次の通りとする。

- 個人会員 本会の目的に賛同して入会した個人。  
法人会員 本会の目的に賛同して入会した法人。

## 第6条(入会)

本会の会員になろうとする者は、別に定める入会申込書を提出し、承認を得なければならない。

## 第7条(退会)

- ① 本会を退会しようとする時は、理由を付した退会届けを提出しなければならない。
- ② 会員は次の各号の一に該当するときは、退会したものとみなす。
  1. 会費を2年以上滞納したとき。
  2. 死亡したとき。
  3. 会員たる法人が解散したとき。

## 第8条(除名)

会員が本会の名誉を傷つけ、又はこの会則に違反したときは、総会の決議により、除名することができる。

## 第9条(役員)

- ① 本会に次の役員を置く。

会長	1名	理事長	1名	理事	10名以上15名以内	会計監事	2名
----	----	-----	----	----	------------	------	----
- ② 理事及び会計監事は、会員の中から総会において選任する。
- ③ 会長及び理事長は、理事の互選とする。
- ④ 法人会員の代表は役員の被選任資格を有する。

## 第10条(役員の仕事)

- ① 会長は、本会を代表し、会務を統括する。
- ② 理事長は、会長を補佐し、会務を処理する。会長に事故あるときは、その職務を代行する。
- ③ 理事は、理事会を組織し、会務を執行する。
- ④ 会計監事は、経理を監査する。

## 第11条(役員の任期)

- ① 役員の任期は、2年とする。但し再任を妨げない。
- ② 補欠により就任した役員の任期は、前任者の残存期間とする。

## 第12条(役員の報酬)

- ① 役員は、原則として、無給とする。但し、常任の役員は、有給とすることができる。
- ② 常勤の役員の報酬は、理事会の決議により定める。

## 第13条(顧問)

- ① 本会に顧問、相談役若干名を置くことができる。
- ② 顧問、相談役等は理事会の議決を得てこれを委嘱する。

## 第14条(総会)

- ① 総会は、定時総会及び臨時総会とする。
- ② 総会は会員をもって構成し、この会則に規定するもののほか、次の事項を決議する。
  1. 事業計画及び収支予算。
  2. 事業報告及び収支決算。
  3. その他本会の運営に関する重要事項。

## 第15条(総会の召集)

- ① 総会は会長が召集する。
- ② 総会を召集するには、会議の議題並びに日時・場所を開催日の10日以前に通知しなければならない。



第16条（総会の開催）

- ①定時総会は、毎年1回会計年度終了後3ヶ月以内に開催する。
- ②臨時総会は、理事会が必要と認めるとき、又は会員の5分の1以上の請求があったときに開催する。
- ③総会の議長は、会長がこれにあたる。

第17条（総会の議事）

- ①会員はそれぞれの一個の議決権を有する。
- ②会員は他の会員に代理出席を委任することができる。
- ③総会の決議は、出席会員の過半数をもって行う。

第18条（理事会）

理事会は、理事をもって構成し、この会則に定められるべきもののほか、次の事項を処理する。

1. 総会における決議事項の執行。
2. 総会に付議すべき事項。
3. 資産の管理。

第19条（理事会の召集）

- ①理事会は年1回以上開催し、会長が召集する。
- ②議長は会長がこれに当たる。

第20条（理事会の決議）

- ①理事会の決議は出席理事の過半数をもって行う。
- ②理事は他の理事に代理出席を委任することができる。

第21条（資金）

本会は下記の資金により運営する。

1. 会員並びに寄付金。
2. 事業収入及びその他の収入。

第22条（会計年度）

本会は会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

第23条（事務局）

- ①本会の事務を処理するために、事務局を置く。
- ②事務局は、理事長が統括する。
- ③事務局に常勤する職員は有給とすることができる。

第24条（会則の変更）

会則の変更は会員の3分の2以上の承認を要するものとする。

- 付則
1. 本会は1990年12月8日から発足する。
  2. 本会の最初の役員は設立発起人がこれにあたる。

役員名簿

（任期1997年の総会まで）

役員	氏名	所属先
会長	伊地智善継	元大阪外国語大学学長
理事長	藤本恒	日中経済協会関西本部
会計監事	待場裕子	流通科学大学
理事	安念一郎	亜細亜大学
理事	伊井健一郎	姫路獨協大学
理事	今里禎	天理大学
理事	大河内康憲	大阪外国語大学
理事	岡本篤子	京都外国語大学
理事	釜屋修	駒沢大学
理事	奥水優	東京外国語大学
理事	武吉次朗	摂南大学
理事	塚本慶一	神田外語大学
理事	戸毛敏美	関西外国語大学
理事	神崎多実子	サイマルアカデミー
理事	橋本南都子	東海大学
事務局長	岩下孝彦	大阪中国語学院

日本ビジネス中国語学会  
入会のご案内

趣旨に賛同される方はどなたでも入会出来ます。

入会ご希望の方は申込み用紙に会費を添えて、事務局までお申し込み下さい。

(設立趣旨・1頁、会則・24頁をご参照下さい)

入会費	1,000円(個人)	会費	2,000円(個人)
	10,000円(法人)		20,000円(法人)

会費納付先 郵便為替 大阪5-4857 日本ビジネス中国語学会

連絡先 〒530 大阪市北区天神橋2-北2-26 マルサンビル4F  
 日中語学センター気付け日本ビジネス中国語学会  
 電話06-353-0671 FAX 06-353-0664

.....キリトリセン.....

入会申込書

日本ビジネス中国語学会  
 会長 伊地智 善継 殿

貴会に入会致します 199 年 月 日

氏名	.....	女 男	生年 月日	年 月 日
住所	〒 .....			
電話	.....			
所属	.....			

会報 第5・6合併号 1997.5.20 発行

## 日本ビジネス中国語学会

〒530 大阪市北区天神橋2丁目北2番26号 マルサンビル4F

日中語学センター気付

TEL 06-353-0671 FAX 06-353-0664

会報が大幅に遅れて、会員並びにご講演いただいた講師の方々にもご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

日本ビジネス中国語学会事務局